

大型車の車輪脱落防止キャンペーン10年目の願い

事故ゼロへ点検と整備

04年の71件から減少 啓発活動の効果

杉山愛さん

毎日の点検で異常は分かる



田端氏、タイヤ交換時は規定のトルクで締める

花田虎上さん

物流の要だからこそ

本来のパフォーマンス発揮へ

物流の要だからこそ、大型トラックの車輪脱落防止活動が、物流業界に大きな影響を与えています。花田虎上さんは、物流業界の要として、この活動に積極的に参加しています。...

日常の点検方法

- 1 タイヤ空気圧の点検**
タイヤの膨らみや歪み、異常な磨耗がないこと、タイヤの厚の残りが十分であることを点検するとともに、空気圧が規定の範囲内であることを点検する。
- 2 目視での点検**
①ナットに緩みはないか。②ナットは付いているか。③サビは出していないか。④車輪ボルトの山がすり減りはないか。⑤ホイールにひび割れはないか。⑥ボルトが割れていないかを点検する。
- 3 点検ハンマや小型ハンマを使用しての点検**
ホイールナットの緩みや歪み、ホイールナットに割傷などの異常がないことを点検すること。

自動車点検基準のポイント

①3か月定期点検
ホイールナットが規定のトルクで取付けられていることを、トルクレンチなどを用いて点検することを規定。

②12か月定期点検
ホイールを車体から取外して、ディスク、ホイールボルトやナット、ハブなどの関連部品を細かく点検すること、取付けの際には規定トルクでホイールナットを取付けることを規定。

③その他、タイヤ交換時の注意として走行後に一度増締めすること、正しい組み合わせのボルトナットを使用することを規定。

なお、平成23年より採用された新ISO方式ホイールは、左車輪も右車輪のように、締める方向を逆にする。なお右方向(右回りの)は、ボルトに付いた表の通り。

壊れる前に点検・整備を

車輪は、車体の一部として、常に大きな力を加えられている。そのため、点検・整備を怠ると、重大な事故につながる可能性がある。

点検・整備のポイント

- タイヤの膨らみや歪み、異常な磨耗がないこと
- タイヤの厚の残りが十分であることを点検すること
- 空気圧が規定の範囲内であることを点検すること
- ナットに緩みはないこと
- ナットは付いていること
- サビは出していないこと
- 車輪ボルトの山がすり減りはないこと
- ホイールにひび割れはないこと
- ボルトが割れていないことを点検すること

活動内容に関するお問い合わせ先

国土交通省 日本トラック協会 日本自動車女子会
日本自動車工業会 日本自動車輸入組合
日本自動車販売協会連合会 日本自動車部品工業会
日本自動車整備協会連合会 日本自動車機械器具工業会
日本自動車同業協会連合会 日本自動車同業協会連合会

大型車 車輪脱落 事故ゼロ

日頃の
点検・整備で



タイヤ交換などホイール脱着時の不適切な扱いによる、
車輪脱落事故が発生しています！
正しい取扱いをお願いします。
(確実な締付け作業)



規定トルクで
ホイール・ナットを
締付ける



点検ハンマを
使用しての点検



ホイール・ナット
とボルトの点検



タイヤ空気圧
の点検

タイヤの空気圧、タイヤに亀裂や損傷、異状な摩擦がないこと、タイヤの溝の深さが十分あることも、しっかりと点検しましょう。

詳しい情報は日本自動車工業会HPへ
<http://www.jama.or.jp/user/>

国土交通省 自動車点検整備推進協議会
大型車車輪脱落防止連絡会 日本自動車工業会(いすゞ自動車 日野自動車 三菱ふそうトラック・バス UDトラックス) 全日本トラック協会
日本バス協会 全国自家用自動車協会 日本自動車整備振興会連合会 日本自動車販売協会連合会 全国タイヤ商工協同組合連合会 日本自動車タイヤ協会
全国石油商業組合連合会 日本自動車車体工業会 日本自動車輸入組合 日本自動車機械工具協会 日本自動車機械器具工業会 自動車用品小売業協会



タイヤ交換などホイール脱着時の不適切な取扱いによる 車輪脱落事故 **注意!** が発生しています!

ホイールナットの締付け不足
アルミホイール、スチールホイールの取扱いミス
(誤組み付け、配装の誤組み)

タイヤ交換作業にあたっては、車載の「取扱説明書」や下記「ホイールナット締付け時の注意点」などを参照して、正しい取扱い(交換作業)をしていただくとともに、必ず「規定の締付けトルク」でホイールナットを締付けるようお願いいたします。
※ホイール取付方式には、JIS方式とISO方式の2種類があります。それぞれ正しい取扱い方法をご確認いただき、適切なタイヤ交換作業の実施をお願いします。

ホイールナット 締付け時 の注意点

■ ディスクホイール、ハブ、ホイールボルト、ナットの清掃について

ディスクホイール取付面、ホイールナット当たり面、ハブ取付面(ISO方式では、ハブのはめ合い部も)、ホイールボルト、ナットの錆やゴミ、泥、追加塗装などを取り除きます。

■ ホイールボルト、ナットの潤滑について

JIS方式▶ ホイールボルト、ナットのねじ部と座面部(球面座)に **エンジンオイルなど指定の潤滑剤** を薄く塗布します。

ISO方式▶ ホイールボルト、ナットのねじ部とナットとワッシャーのすき間に **エンジンオイルなど指定の潤滑剤** を薄く塗布します。ナットの座面(ディスクホイールとの当り面)には塗布しないでください。

※ホイールの固着防止のため、ハブのはめ合い部(インロー部)にグリースを薄く塗布します。

■ ホイールナットの締付けについて

ホイールナットの締付けは、対角線順に2~3回に分けて行い、最後にトルクレンチなどを使用して、規定の締付けトルクで締付けます。

※ホイールナットの締付け不足、締め忘れ防止のため、ナット締付け作業時(終了後)、「規定の締付けトルク」で確実に締付けたことを確認するよう、お願いします。

■ ホイールナットの増し締めについて

締付け後の初期なじみによって、締付け力が低下します。ホイール取付後、50~100km走行後を目安に「規定の締付けトルク」で増し締めを行います。

■ アルミホイールへの履き替えについて

スチールホイール、アルミホイールへの履き替えは、それぞれ専用のホイールボルトやナットへの交換が必要となります。誤組や混用は、ボルト折損などの原因となります。必ず確認してください。

※JIS方式では、アルミホイール(スチール)用のホイールボルト、ナットで、スチールホイール(アルミ)は履けません!
ISO方式では、スチールホイール用ホイールボルトで、アルミホイールは履けません!

ホイール締付け方式

ホイールの締付け方式には、球面座で締付けるJIS方式と、平面座で締付けるISO方式があります。また「排出ガス規制・ポスト新長期規制適合」大型車から、左右輪・右ねじとする「新-ISO方式」を採用しました。

ホイール締付け方式	ISO方式 (8穴、10穴)	JIS方式 (6穴、8穴)
ホイールサイズとボルト本数(PCD)	19.5インチ: 8本 (PCD275mm) 22.5インチ: 10本 (PCD335mm)	17.5(19.5の一部)インチ: 6本(PCD222.25mm) 19.5、22.5インチ: 8本(PCD285mm)
ボルトサイズ ねじの方向	M 22 左右輪:右ねじ(新-ISO方式) 右輪:右ねじ 左輪:左ねじ(従来ISO方式)	前輪 M24(または20) 後輪 M20, M30 右輪:右ねじ 左輪:左ねじ
ホイールナット 使用ソケット	平面座(ワッシャー付き)・1種類 33mm(従来ISO方式の一部は32mm)	球面座・6種類 41mm/21mm
ダブルタイヤ	一つのナットで共締め	インナー、アウトナーナットそれぞれで締付け
ホイールのセンタリング	ハブインロー	ホイール球面座
アルミホイール履き替え	ボルト交換	ボルトおよびナット交換
後輪ダブルタイヤの 締付け構造		

詳しい情報は、
日本自動車工業会HP
をご覧ください。

●新ISO方式ホイール取扱いガイド

http://www.jama.or.jp/user/pdf/iso_wheel_100203.pdf

●中・大型トラック・バスのホイールナット締め付けトルク

<http://www.jama.or.jp/user/pdf/wheelnut.pdf>

●車輪脱落防止のための正しい車輪の取り扱いについて

http://www.jama.or.jp/user/pdf/fall_off_wheel2007.pdf